

# 風 っうしん

2007年11月20日

NO. 4

風を創ろう  
市民グループ「風」

河合谷小閉校「待った!!」の直接請求による臨時議会 10月26日と31日

## 議会で飛び出した議員の問題発言!

住民の「直接請求」によって開かれた臨時議会は、町長の意見書からも何ら閉校しなければならない理由が見当たらず、それを精査する議会も機能しない最悪の議会でした。「何とか学校を残せないものか」「せめてもう少し時間をかけて話し合い、それまでは凍結して欲しい」と願う地域住民と保護者の意見陳述は一切聞き入れられませんでした。議会から返ってきたのは、小規模校と過疎集落住民を侮辱、切り捨てる言葉だけで、13人の議員が閉校に賛同しました。(4対13)



多賀議員

平成18年度の河合谷小の維持費は  
児童一人当たり134万円  
条南小は4万7千700円  
あまりにも不公平である  
少人数の児童のために  
多額の税金の投入は  
いかがなものか!

ちょっと待って!  
その計算の仕方はおかしいよ!  
国からの交付税を入れて  
計算してみると、河合谷より  
もっとかかるところがあるよ。



どこの学校の子供であれ、子供たちはみんな、すべて平等で、津幡町の大切な大切な宝である。そもそも子供一人にかかる費用を学校ごとに計算し(意図的に偏った計算方法で)不公平などというのは言語道断!間違っている!



平成18年度津幡町小学校教育費 ★ 小規模特別認定校

小学校名	児童数 18年度 (19年度)	維持費 A (万円)	一人当りの 維持費 (万円)	国からの 普通交付税 B (万円)	町費 持ち出し A-B (万円)	一人当りの 町費持ち出し (万円)
河合谷 ★	10 (13)	1,340	134.00	1,300	40	4.0
刈安	37 (40)	1,760	<del>97.80</del> 47.57	1,580	180	4.9
笠野	45 (44)	1,960	<del>93.60</del> 43.56	1,750	210	4.7
条南	582 (557)	2,770	<del>477</del> 4.76	6,320	-3,550	-6.1

「風」が調べました

◎普通交付税は学校数、学級数、児童数等を基準に国から町へ一括して入るもので、特定の小学校にいくらかという形で入るものではないそうです。

◎維持費については学校教育課から、交付税については企画財政課から聞いた費用です。

◎河合谷小の維持費には町営バス定期代補助費(年間約8万円/人)が含まれています。町には町営バス運行に対する特別交付税が入っているので、河合谷小の町費持ち出しはさらに小さくなると算出されます。

# 許されるか?! 少人数教育を否定

わかっているの?!  
小規模校のよさ

河合谷小学校は、児童数13名（うち地元の児童が3名）これは、県内他の特認校と比べて極端に少数存在の意義があるのか! 地域の拠点となりうるのか!  
集団生活の中での社会性は身につくのか! コミュニケーション能力がつくのか!  
わがままな子にならないか! 忍耐力がつくか!  
競争意識、向上心を持たせられるか! 団体スポーツにふれることができるのか!  
将来を担う子供たちの育成上の問題が多々ある。



多賀議員



角井議員

多感な年齢の時期に、少人数学校では人間が限定され、連帯感や自立心を妨げ、社会性を培うことが難しくなる。少人数学校では一人ひとりに目が行き届く反面、先生が少ないから、指導上のバリエーションが少なくなる。生徒指導が発揮できないと思う。私の主観である。

河合谷小の子どもたちの様子を自分の目で確かめて言っているのですか?

議会では、客観的根拠に基づいた発言をして欲しい  
多感な年齢? 指導上のバリエーション?? 生徒指導が発揮できない???



酒井議員

羽咋市神子原地区の自然条件は、河合谷に似ている。  
都会からの里親制度、棚田オーナー制度、人工衛星による肥料の管理、1年を通じいろんな地域おこしをしている。羽咋市に仕掛け人・リーダーがいるからだ。今反対している河合谷のリーダーに、こんなところにパワーを出していただければと残念に思う。生徒数が少なれば仲が良いだろう。しかし子供にとってこれからの人生長いのだから、保護者は子供の将来についてどうとらえているのか。子供のことを考え、河合谷の発展のために、反対する。

河合谷への激励としては、あまりにも残酷、冷酷な発言ではないか。

羽咋市の仕掛け人・リーダーは市の職員です。津幡町は、河合谷の人たちに何か指導をしたのですか? 河合谷の人たちも頑張っているのに、津幡町は学校を閉校にしてから頑張るのですか?



向議員

今回の直接請求の署名は、誹謗中傷のもと集めたもの。真に子供たちのために行われたか疑問に思う。生きる力とは、何か? 学力、社会性、体力など、現在の河合谷小は子供に本当の力をつける教育環境にあるのか? 町はそれを考えて総合的に判断したので、閉校を支持する。

人数が多ければ本当の力をつける教育環境になると本気で思っているのか?

あなたは、刈安、笠野をも侮辱しているのですよ。刈安、笠野も閉校にするつもりですか。



南田議員

私は自分の子供がいれば、団体生活になじめない、そういう子供に育つか心配でならない。そのために、仮に私が河合谷に住んでいけば、出て、津幡の方で家建て、子どもを大きな学校に通わせる。また限られたスポーツしか体験できない環境で、競争意識も育たないと思う。社会に出た時にしっかり自分の道を歩いていけるような子供に育つ環境がどういうものか。河合谷小の現状を考えれば、問題がある。

副議長として公の場（議会）で保護者、地域住民に向かって問題発言!!

少人数教育を頭から否定するこの発言は、河合谷小のみならず、津幡のほか2校の小規模校、全国の小さな学校の児童、生徒、保護者、教師を侮辱し、切り捨てるものです。

全国の小規模校が研究発表などで述べていること  
閉校賛成派議員の見解（意見）とは全く逆

- ・子ども一人ひとりに行き届いた学習指導ができる。
- ・一人ひとりが主役になり、様々な発表や活動の場が多い。
- ・先生・児童一体となったふれあい活動などを通して個性を十分に発揮できる。
- ・上の学年の良い姿を手本にし、教え合い、学び合いができる。
- ・異年齢集団での交流が密であり、協調性、社会性が育つ。
- ・学校での指導体制や共通理解が容易で、全職員で子供たちに関われる。
- ・学校、家庭、地域の距離が近く、諸活動に協力が得やすい。
- ・地域とのつながりが密接であり、それを生かした取り組みができる。等々

30年以上小学校の教員をしてきたが、小規模校だからというだけで、河合谷小閉校に賛成する議員がいうようなマイナス面があるのではない。適正規模の学校でも学習面、生徒指導面で数多くの問題をかかえているのが現状であり、いじめ問題も深刻である。

大規模校、小規模校、どちらにもそれぞれの良さがあるが、特に小学校では、小規模校にこそ教育の原点があり、理想があると思う。また、豊かな自然の中でのびのびと、児童、教師、保護者、地域の人々みんなが心を通わせる中で育った子供たちに、悪の芽は育つはずがない。心の教育が叫ばれる昨今、河合谷のような教育環境こそが求められている。

近年、多くの小学校で、少人数グループによる学習や縦割りグループによる活動を取り入れている。少人数、小規模校の教育を否定して、閉校を論ずることは無知以外の何物でもない。（元教師）

教育委員会は、一方的に理解と協力を求めるだけであった。ましてや、教育委員は、国から交付税が入っている事さえ知らず、事務局側もそれを知らしめる事もなく、金がかかることのみを強調して、廃校の決議をした。特認校になってからの地区の協力と誇りをないがしろにしてもらいたくない。



谷下議員

小規模校は、こうであると決めつける議論はおかしいのではないか。大規模校との比較調査などをしたことがあるのか聞いたところ、教育長は、していないと答弁した。

小松市の特認校の西尾小学校は、11名が31名になった。特別なことはしていないが、バスを走らせているという。続けることが大事と思う。

町の人から寄付の申し出があった。町の人、全国の人に呼びかけて、お金を増やしたい。ぜひ、2年～3年の凍結をお願いします。



塩谷議員

他の校区から河合谷小学校へ通う児童が増えていることに注目すべきだ。豊かな自然と、全住民が禁酒をしてまで教育を守り育ててきたという歴史と文化、そして現在も学校を支えている住民、保護者、教職員の存在がある河合谷だからこそできる特認校だ。財政難という点では、当時の河合谷村も、今日のわが町も同じ。禁酒をしてお金をため学校を作った河合谷と比べて、今の津幡町がギャンブル場を作らせて、そのテラ銭を教育、福祉に当てようとしているギャップを考えよ。学校が無くなればますます人口は減少し、近い将来、極限の過疎化によって共同体は崩壊し山里が失われる恐れがある。まさに行政の暴力によって地域が押しつぶされる。

条例改廃の直接請求は、議会が「まともに機能していない」という意味だ。閉校を一定の期間凍結し、行政と住民とが問題点を明らかにし、その克服に努めていくことが大切であり、そうすることでよりよい結果が生まれる。



中村議員



前田議員

教育委員会が真剣な討議もなしに閉校を決めたことが、この問題の大きな原因である。しかし、今私たちが考えなくてはならないのは、責任追及ではなく、子どもたちのこと。津幡町のすべての子どもにとって最も幸せな教育は何か、である。少子化や過疎化の問題は、早晚、津幡町全体の切実な問題となる。

河合谷小のさわらび祭を見て、小規模校だからこそできる理想的な教育があることを実感した。特認校制度は、学校、地域、保護者にとっても意義のある制度であり、継続していかなければならない。

岩手県宮古市では、単に子どもの数が少ないからといって統廃合を進めては、地域社会を根こそぎ崩すとして、小学校はギリギリまで残すという方向をとって教育効果を挙げている。

閉校を急ぐ必要はない。発想を変えよう。1年でも2年でも凍結して、私たちおとなが知恵を結集することで、逆に津幡町が希望の町、教育の町として全国に発信する方法までも必ず見出せる。

# 直接請求の重みがわかっていない！

文教福祉常任委員会傍聴を鈴木委員長に申し入れましたが、断られました。

Q 「許可されない理由をお聞かせください。」

鈴木 「特にごさいません。」

Q 「え!? 理由は何もないんですか？」

鈴木 「許可する理由が見当たらないからです。」

Q 「・・・！」

直接請求による臨時議会では、代表者3人（松本氏、宮本氏、江口氏）が議場で意見を述べることはできません。しかし、谷口議長の強行採決により、3人でたった30分と制限されてしまいました。これでは想いの半分も述べられるはずありません。

宮本遼一先生（元・滋賀大学長、経済学博士）からも残念の声が...

地元住民が河合谷小学校存続を強く希望し、町民から寄付の申し出があるにもかかわらず議会が一方的に廃校を強行したのは暴挙といってよいでしょう。私の魂の故郷、石川県の河合谷が禁酒村として、教育を支えたことは誇りに思っています。

## 納得できない小学校の廃校 辻本美樹（主婦 金沢市）

校舎耐震費用の足しにとの三千万円の寄付をも一顧だにされず、一方的な決定と訴える地元や、一時凍結の提案も無視して、津幡町河合谷小学校の廃校が決定された。児童の視察もせず、少人数校の存在や子どもたちの育ちを全否定する廃校派議員たち。自立心・忍耐力などが育たないというのが、現実とは全く逆。採決間際に耐えきれず、退場覚悟で傍聴席からの発言を求めた女性。「帰って子どもに何と話したら...」途方に暮れ、涙ぐむ若い親たち。議会制民主主義とは多数決で少数意見を踏みつぶすことと思ひ知る。

地域の過疎化・疲弊に拍車をかける、効率化・合併再編一辺倒の教委に疑問。特認校の役割を考えるなら、せめて今通っている子らが卒業するまで待つのが筋。費用対効果や効率といった数字で、子どもの育ちは測れない。  
（北陸中日新聞 2007年11月15日（木）朝刊「発言」より）

## 編集後記

本年、津幡町では実質2回の「直接請求」が行われました。3月議会に届けられた14000人以上の「ポトピア反対署名」と今回の「河合谷小学校存続の願い」です。町立図書館にある、『地方議会』『地方自治』の本には「直接請求」について次のような主旨の記述があります。

①「直接請求」は「行政と議会」の決定が住民の意思と大きな隔たりがあるときに行われる。

②「直接請求」に対して「行政と議会」は自らへの警鐘と受け止め、謙虚に反省し、対応することが求められる。

残念ながら、津幡町の「行政と議会」は「直接請求」を「重く受け止める」ことも「謙虚に反省」することでもありませんでした。私たちは今、「行政と議会」において、少しでも住民の声が届くために何をすればよいのか、模索しています。財政難を解決する為に例えば、議員報酬の大幅削減、又は、議員定数の削減や、議員倫理条例の制定（議員と関わりの深い企業は町発注の工事請負等を辞退。かほく市は実施。）などを提案します。又、津幡町議会議員の政務調査費の使われ方にも関心を持っています。

皆様のご意見をどんどん私たちにお寄せください。私たちはこれからも「見えない議会を見える議会に」するために、活動していきます。

「風つうしん」はメンバーの会費の他に、皆様方からの温かいカンパによって支えられ発行しています。カンパに対するご理解とご協力をお願いいたします。また、「風つうしん」のポスティングに協力して下さる方を求めています。津幡町をポスティングしながら歩いてみませんか。上記の世話人までご連絡ください。

7月～10月のカンパの収入合計 111,000円、会費の収入合計 68,000円